

平成15年 3月20日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長
西田 良一

広島大学学位記授与式の挙行について

平成14年度広島大学学位記授与式を下記のとおり挙りますのでお知らせします。

つきましては、『[式次第](#)』、『[学長告辞](#)』、『[卒業、修了者数調\(修士、博士を含む\)](#)』、『[総代等各代表者名簿](#)』、『[学生表彰者一覧](#)』及び『[就職状況](#)』を別添のとおり送付します。

なお、式場で取材をされる場合は、自社の腕章を着用していただくようお願いします。

おって、式の当日は、大学関係者は全て式場におりますので、当日のお問い合わせは式場の受付でお願いします。

記

日時 平成15年3月23日(日) 11時開式
場所 東広島運動公園体育館
(東広島市西条町大字田口67番地の1)

【お問い合わせ先】
広島大学総務部総務課総務係長
仲 良夫
TEL:(0824)24-6016
(ダイヤルイン)

[発信枚数;A4版 15枚(本票含む)]

平成14年度 広島大学学位記授与式

日 時 平成15年3月23日(日)11時開式
場 所 東広島運動公園体育館

式次第

- 一、開式の辞
- 一、国歌演奏
- 一、卒業証書学位記及び修了証書授与
- 一、修士学位記授与
- 一、博士学位記授与
- 一、学長告辞
- 一、在学生代表送辞
- 一、卒業生及び専攻科修了生代表謝辞
- 一、修士及び博士学位記被授与者代表謝辞
- 一、留学生代表謝辞
- 一、学生表彰
- 一、広島大学歌斉唱
- 一、閉式の辞

告 辞

皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご参列のご家族の皆さん、本日はまところにおめでとうございます。

本日は、「失敗は成功の母」という言葉を、卒業生諸君へのはなむけの言葉として選び、お話をしたいと思います。

「失敗は成功の母」はよく知られた格言の一つです。中国でも「失敗是成功之母」として知られており、英語でも「Failure teaches success」という似た格言があります。「失敗の積み重ねが成功に導く」という考えは、世界共通のようです。

平成14(2002)年は、日本で初めて二人のノーベル賞受賞者が同時誕生して、記念すべき年となりました。物理学賞が小柴昌俊さん、化学賞が田中耕一さんです。

今回のノーベル賞受賞でとても興味あることは、ご両人の研究がともに、広い意味で失敗と関係があるということです。

小柴昌俊さんは、もともと陽子崩壊を見つける目的でカミオカンデをつくりました。陽子崩壊とは、物理の統一理論で予言されている現象の一つです。この理論によると、物質の基礎となっている陽子でも、わずかな確率で崩壊していることとなります。小柴さんは、このわずかな可能性を、無用の信号から一切遮断された神岡鉱山の地中深いところに設置したカミオカンデという装置で確かめようとしたのです。カミオカンデという巨大施設を建設するためには、小柴さんは大変な努力をされました。ところで、カミオカンデでは、長年の観測にも拘わらず、肝心の陽子崩壊はまだ発見されていません。もともと、統一理論そのものが正しくなかったら、いくら待っても陽子崩壊の観測には成功しないかも知れないのです。

小柴さんは、考えるところがあって、素粒子の一種であるニュートリノも観測できるようにこの装置を改造しました。ところが、たまたまその直後の1987年春に、超新星爆発が起こり、その超新星から放射されるニュートリノを観測することができました。この結果、超新星爆発の機構についての理解が深まると共に、ニュートリノの性質についての理解も進みました。カミオカンデは、陽子崩壊観測のためにつくったのですが、超新星からのニュートリノ観測という快挙を成し遂げたのです。この成果が、今回のノーベル賞受賞につながりました。

実験や観測は、本来の目的については成功しなくても、その装置が存在し、科学者達が的確な科学的センスを持っていれば、思いがけない他の発見に導いてくれるものです。小柴さんの発見は、この好例でしょう。

つぎに、田中耕一さんです。田中さんは、タンパク質のような高分子の質量測定装置を開発したいと考えていました。通常、分子の質量を測定するのに、物質表面にレーザー光をあてて分子を遊離させ、その質量を測るという方法が使われます。しかしタンパク質にレーザー光を直接あてると分解してしまうので、タンパク質と混ぜてレーザー光の衝撃を弱めるような物質(マトリックス)を田中さんは探索していました。ある日、マトリックスを作る過程で、コバルト粉末に誤ってグリセリンを混ぜてしまったのです。田中さんは、それを勿体ないと思い、捨てずに測定してみました。すると、思いがけないことに、それがマトリックスとして素晴らしい性能を持っていることが分かったのです。

失敗をただ失敗として捨て去ることなく、測定を続けた科学的センスがここでも光っています。しかも、失敗とは知りつつも、測定した結果に鋭い研究者としての目を光らせた田中さんの実直さと注意深さが、ノーベル賞に導いたといえます。

科学的研究においては、失敗は、別の側面から見れば成功であることがあります。これは、科学的研究だけのことではないかも知れません。失敗から学ぶ精神が大事です。

卒業生・修了生の皆さんは、これから社会に出て、いろんな失敗をすることでしょう。失敗で上げたり、失敗を早く忘れたいと思ったりする前に考えてみましょう。失敗は成功へ到る道程の一

部だということを。
皆さんの活躍を期待しています。

平成15年3月23日
広島大学長
牟田 泰三

平成14年度広島大学卒業生数

平成15年3月23日卒業

学 部		卒業生数	筆頭者氏名
総合科学部		151(85) * 1(0)	青木 満里
文学部		165(115)	青木 里美
教育学部		338(201) * 2(2)	石井 信隆
学校教育学部		351(229)	秋本 理沙
法学部昼間コース		143(64)	赤松 伸崇
法学部夜間主コース		79(33)	石本 登一
法学部第二部		2(1)	水戸 弘通
経済学部昼間コース		157(32) * 1(0)	青野 哲英
経済学部夜間主コース		88(26)	浅野 洋介
経済学部第二部		1(0)	太田 茂伸
理学部		263(68)	青谷 章弘
医学部	医学科	105(22) * 1(1)	青木 志郎
	総合薬学科	64(45)	
	保健学科	134(106) * 1(1)	
歯学部		59(21)	赤崎 友彦
工学部		606(71)	朝倉 悠典
生物生産学部		131(57)	青木 佐和子
計		2,837(1,176) * 6(3)	

平成14年度広島大学専攻科修了者数

専攻科	修了者数	筆頭者氏名
特殊教育特別専攻科	5(4)	亀井 朝香

(注)()内は女子で内数 *は外国人留学生で内数

平成14年度広島大学大学院博士課程前期及び修士課程修了者数

研究科名	修了者数	筆頭者氏名
文学研究科	51 (25) * 3 (3)	波多野 鉄也
教育学研究科(旧)	2 (2)	高田 陽子
教育学研究科(新)	168 (82) * 15 (11)	天清 之善
社会学研究科	110 (42) * 15 (10)	青山 武司
理学研究科	142 (32) * 4 (4)	安部 祥二
先端物質科学研究科	105 (16) * 2 (1)	阿達 正浩
医学系研究科	86 (45) * 1 (1)	荒巻 直希
医菌薬学総合研究科	1 (1)	佐々木 道子
工学研究科	295 (25) * 15 (4)	秋本 亮一
生物圏科学研究科	108 (35) * 2 (1)	稲尾 真悟
国際協力研究科	62 (27) * 26 (12)	JINDARAT SRIKRAM
合計	1,130 (332) * 83 (47)	

(注)()内は女子で内数 *は外国人留学生で内数

教育学研究科(新)は、平成12年4月、既設の教育学研究科及び学校教育研究科を改組・再編したものの。

平成14年度広島大学大学院博士課程及び博士課程後期修了者数

研究科名	課程	修了及び授与者数	筆頭者氏名
文学研究科	課程博士	15(3) * 1(0)	阪本 佳代
	論文博士	10(2) * 1(0)	小澤 毅
教育学研究科	課程博士	32(19) * 9(6)	影山 和也
	論文博士	14(3) * 1(0)	梅津 正美
社会学研究科	課程博士	7(4)	小野 宏
	論文博士	0(0)	
理学研究科	課程博士	27(5) * 4(0)	小山 通榮
	論文博士	3(0)	近藤 育志
先端物質科学研究科	課程博士	13(1) * 1(0)	田中 聖康
	論文博士	0(0)	
医学系研究科	課程博士	53(8) * 8(4)	西嶋 真理子
	論文博士	7(0)	上村 健一郎
歯学研究科	課程博士	26(4) * 5(2)	平尾 慶太
	論文博士	1(1)	藤原 環
工学研究科	課程博士	22(1) * 10(1)	UGO SOUTO ORLANDO
	論文博士	3(0) * 1(0)	兼近 将一
生物圏科学研究科	課程博士	27(7) * 9(3)	村上 忠幸
	論文博士	4(0)	味方 和樹
国際協力研究科	課程博士	7(1) * 1(0)	山下 明博
	論文博士	1(0)	加藤 莊志
合計	課程博士	229(53) * 48(16)	
	論文博士	43(6) * 3(0)	

(注)()内は女子で内数 *は外国人留学生で内数

平成14年度学位記授与式 各代表

15. 3. 23

区分	項目	学部及び研究科	学科及び専攻	氏名
学部・専攻科	代請者	学校教育学部	小学校教員養成課程	二谷 洋平
	送辞者	歯学部	歯学科	松浦 歩
	謝辞者	歯学部	歯学科	岡 広子
大学院	M 代請者	先端物質科学研究科	博士課程前期	浅野 勝広
	D 代請者	歯学研究科	博士課程 歯学臨床系専攻	竹内 真帆
	M・D 謝辞者	教育学研究科	博士課程後期 学習開発専攻	梶井 芳明
	留学生 謝辞者	社会学研究科	博士課程前期 法律学専攻	金 永哲

表彰者一覧

平成15年3月23日(日)(学位記授与式)

(1)学術研究活動 学部生(成績優秀者)

(規程第2条第1号該当)

学部	学科等	氏名	表彰に値すると認められる行為等
総合科学部	総合科学科	川口 佳子	学業成績が極めて優秀である。
文学部	人文学科	小野 真由美	〃
教育学部	教育学科	西山 珠美	〃
学校教育学部	小学校教員養成課程	高橋 均	〃
法学部	法学科	田中 活	〃
経済学部	経済学科	山本 隆一	〃
理学部	数学科	原本 博史	〃
医学部	医学科	三浦 奈央子	〃
歯学部	歯学科	岡 広子	〃
工学部	第四類(建築工学課程)	村田 裕志	〃
生物生産学部	生物生産学科	原田 怜	〃

(1)学術研究活動 大学院生

(規程第2条第1号該当)

候補者氏名又は団体名	表彰に値すると認められる行為等
大学院理学研究科 博士課程前期 生物科学専攻(M13) 黒田 有寿茂	第8回国際生態学会(INTECOL)において、「宮島における森林植生の植生 図化と遷移」の研究内容及び発表能力が高く評価され、学生の部ポスター賞 第2位を受賞。
大学院理学研究科 博士課程前期 地球惑星システム学専 攻(M13) 服部 雄次	「Os同位体組成を用いた中国乾燥地域での風成堆積物の移動についての 研究」を進め、「Re-Os同位体系から見た上部大陸地殻の平均組成」への研 究へと発展させ、中国の風成堆積物について、極微量のOsについて同位体 組成を求めることに成功し、そのデータをもとにして「風成堆積物の移動」と 「Re-Os同位体系から見た上部大陸地殻の平均組成」を中心とする論文を まとめ、地球科学で国際的な雑誌である <i>Geochimica et Cosmochimica Acta</i> (Vol.67,in press)に掲載される予定。
大学院先端物質科学研 究科 博士課程前期 量子物質科学専攻(M 13) 森本 高志	リアルタイムで画像分割処理を行うアーキテクチャとデジタル回路による実 現方法を提案し、LSIチップとして実現した。開発したLSIに対して、特許出願 し当該領域での2つの国際会議(IEEE Asia-Pacific Conference on ASIC及 びInternational Conference on Solid State Devices and Materials)で自ら発 表を行った。更にLSI設計資産としての有効性と将来性が高く評価され、産業 界より「第4回LSI IPデザイン・アワード開発奨励賞」を受賞した。

大学院工学研究科 博士課程前期 物質化学システム専攻 (M13) 竹内 久美子	第10回プラスチック成形加工学会秋季大会成形加工シンポジア'02において研究題目「超臨界二酸化炭素によるポリ乳酸の結晶化」を発表し、オリジナル賞を受賞した。
大学院工学研究科 博士課程前期 物質化学システム専攻 (M13) 藤井 宏中	2002年度粉体工学会秋季研究発表会で研究題目「フラックス塩を添加した噴霧熱分解法によるBaTiO ₃ 粒子の製造」を発表し、研究内容と発表方法が優れていたことが高く評価され、ベストプレゼンテーション賞を受賞した。
大学院生物圏科学研究科 博士課程前期 生物生産学専攻(M13) 松宮 佳代	平成14年9月フランス(リヨン)で開催の国際会議(3rd World Congress on Emulsion)において、研究題目 Preparation of fine W/O/W emulsions with narrow Particle size distribution by membrane emulsification method combined with pre-emulsification の発表を行い研究内容と発表状態が優秀であったことから、第3回エマルション国際会議 最優秀ポスター賞を受賞した。
大学院国際協力研究科 博士課程前期 開発科学専攻(M13) 早見 淳志	日本海水学会第53年会で「海水リチウム吸着システム」の論文発表を行い、日本海水学会第53年会ポスター進歩賞を受賞した。
大学院文学研究科 博士課程後期 地理学専攻(D11) 後藤 拓也	日本地理学会発行の地理学評論第72巻第7号に掲載の論文「輸入 鶏肉急増下における南九州ブロイラー養鶏地域の再編成」が日本地理学会賞(激励賞)を受賞した。
大学院工学研究科 博士課程後期 物質化学システム専攻 (D12) 蔣 韓權	第6回国際エアロゾル学会で研究題目「Optical Properties of Porous Aggregates consisting of Primary Silica Nanoparticle」を発表し、研究内容の高さと積極的な発表が高い評価を得て、ベストポスター賞を受賞した。
大学院生物圏科学研究科 博士課程後期 生物生産学専攻(D13) 竹内 守雄	日本結晶成長学会主催の第32回結晶成長国内会議において、研究題目「油脂2成分混合系の結晶化挙動に及ぼす超音波刺激の効果」を発表し、研究内容と発表が優秀であると評価され、講演奨励賞を受賞した。

(2) 課外活動

(規程第2条第2号該当)

候補者氏名又は団体名	表彰に値すると認められる行為等
体育会弓道部 坂元 俊一(11工・一類) 千鳥 博史(12工・一類) 原 忠司(12理・地球) 神川 千春(13理・数学) 吉田 直人(11工・四類) 嵩下 雄介(12工・四類) 祢宜 卓(12工・四類) 玖島 徳幸(12理・物理) 山田 史郎(11理・物理) 野口 裕之(13経・経昼) 岡村 透(12工・一類) 遊佐 圭介(11工・一類)	第46回西日本学生弓道選手権大会 男子団体準優勝 大会開催日:平成14年5月26日(日) 開催場所:岡山県体育館 第35回中国学生弓道競技大会 男子団体優勝 大会開催日:平成14年4月20日(土)~21日(日) 開催場所:松江市総合体育館
川口 絵美(11教・教科)	第10回ベトナム国際柔道大会 女子70キロ級 優勝

<p>(体育会柔道部)</p>	<p>大会開催日:平成14年8月2日(金)~3日(土) 開催場所:ベトナム社会主義共和国ホーチミン市</p>
<p>体育会水泳部 大野ひろみ(11教・教科) 黒坂 志穂(14教・四類) 山下奈穂子(12教・一類) 名和原 寛(11理・生物)</p>	<p>第49回全国国公立大学選手権水泳競技大会 女子100M 平泳ぎ 第4位 大野ひろみ 第7位 黒坂 志穂 女子200M 平泳ぎ 第3位 大野ひろみ 第4位 黒坂 志穂 女子400M 自由形 第5位 山下奈穂子 男子200M 個人メドレー 第8位 名和原 寛 大会開催日:平成14年8月6日(火)~7日(水) 開催場所:高知市屋内競技場</p>
<p>体育会硬式野球部 桑原 崇(11理・数学) 小松原 研(12教・二類) 前田 耕平(13教・二類) 三宅 浩亮(14教・総合) 松永 卓也(11教・教科) 新垣 慶史(12文・人文) 田中 新一郎(12教・一類) 亀井 彰(14教・二類) 小澤 武範(11工・四類) 中島 健志(11法・法昼) 前川 正勝(11教・教科) 内田 満則(12工・四類) 川島 豊(12法・法昼) 木山 幸太(12教・二類) 中井 祐輝(12理・物理) 平岡 正和(12医・保健) 広木 孝平(12教・四類) 伊東 寿晃(14教・四類) 緒方 勝(14理・数学) 井上 真一(11経・経昼) 川喜田真也(12教・二類) 坂上 謙次(12教・二類) 嶋本 雅宏(12教・二類) 加茂 剛(13理・物理) 日浦 勝也(14教・二類)</p>	<p>第33回明治神宮野球大会 ベスト8 大会開催日:平成14年11月15日(金)~16日(土) 開催場所:明治神宮野球場</p>
<p>体育会バレーボール部 山本 憲子(12教・四類) 大山 幸恵(12教・四類) 久保麻由子(11理・数学) 小川智恵子(12教・四類) 一柳 孝江(11教・教科) 志賀 亜希子(11教・教科) 吉村 恵(11教・教科) 廣中 裕美(11学・小学) 吉田 奈美(11医・保健) 松本 好恵(14教・四類) 東 美香(14教・三類) 田中 実和(13教・一類) 高島 麻利央(13教・四類) 増本 百世(13教・一類)</p>	<p>平成14年度第28回西日本バレーボール 大学女子選手権大会 準優勝 大会開催日:平成14年7月4日(木)~7日(日) 開催場所:広島県立総合体育館</p>

(3) 社会活動

(規程第2条第3号該当)

<p>候補者氏名又は団体名</p>	<p>表彰に値すると認められる行為等</p>
-------------------	------------------------

ピア・サポーター
 釜本 健司(M13・教育)
 須納瀬 衛(11教・教科)
 長 正晴(11学・小学)
 蒲池 和明(11教・心理)

平成11年度にキャンパス・ウォームラインにおいて、学生ボランティアとして電話相談活動に従事した。11年度のピア・サポーター養成セミナーに参加し、ピア・サポーターとして認定され、平成12年度からのピア・サポート・ルームの発足と同時に、ピア・サポーターとして平成14年度末まで相談活動に従事した。ピア・サポート・システムが定着していないわが国では、ピア・サポーターとしての活動は困難をきわめたが、持ち前のボランティア精神で未知の領域を開拓し、4年間のボランティア活動は、本学の学生支援活動に大いに貢献した。

(4) その他(学生の規範)

(規程第2条第4号該当)

候補者氏名又は団体名	表彰に値すると認められる行為等
体育会応援団 錦織 庄吾(10工・四類)	五大学学生競技大会の壮行会を始め、各種体育大会並びに大学の各種行事に対する応援行為において、応援団長として先頭に立ち、そこに参加する者へエールを送り、参加者の意識を鼓舞高揚させて、大会及び行事を盛り上げてくれた。

平成15年3月卒業・修了者就職状況

平成15年3月19日現在

部 局	項 目 性 別	卒業・修了者数 A=(B+D)			就職希望者数(B)			就職決定者数 (C)						就職率 (C) -% (B)	非就職者数 (D)								
		男	女	計	男	女	計	一 般			教 職				合 計			進 学		自営家事その他			
								男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計	男	女	計
大 学 院 博 士 課 程 前 期	文学研究科	26	25	51	8	16	24	2	3	5	2	3	5	4	6	10	41.7	12	2	14	6	7	13
	教育学研究科(旧)	0	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	教育研究科(新)	86	82	168	40	46	86	2	4	6	15	10	25	17	14	31	36.0	23	21	44	23	15	38
	社会科学研究科	68	42	110	10	6	16	7	4	11	0	0	0	7	4	11	68.8	3	8	11	55	28	83
	理学研究科	110	32	142	68	24	92	44	16	60	2	2	4	46	18	64	69.6	29	7	36	13	1	14
	先端物質科学研究科	89	16	105	70	14	84	66	12	78	0	1	1	66	13	79	94.0	16	2	18	3	0	3
	医学系研究科	41	45	86	28	29	57	22	19	41	0	3	3	22	22	44	77.2	2	0	2	11	16	27
	医薬薬学総合研究科	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	1	1	0	0	0
	工学研究科	270	25	295	247	20	267	242	20	262	0	0	0	242	20	262	98.1	15	2	17	8	3	11
	生物圏科学研究科	73	35	108	53	24	77	43	21	64	2	0	2	45	21	66	85.7	12	8	20	8	3	11
国際協力研究科	35	27	62	20	5	25	16	4	20	0	0	0	16	4	20	80.0	2	2	4	13	20	33	
計	798	332	1,130	544	186	730	444	103	547	21	19	40	465	122	587	80.4	114	53	167	140	93	233	
専 攻 科	特殊教育特別専攻科	1	4	5	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1	0	1	0	1	1
	計	1	4	5	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	1	0	1	0	1	1
学 部	総合科学部	66	85	151	31	49	80	26	43	69	1	1	2	27	44	71	88.8	33	29	62	2	7	9
	文学部	50	116	166	31	95	126	23	65	88	1	2	3	24	67	91	72.2	17	11	28	3	8	11
	教育学部	137	201	338	86	152	238	29	71	100	21	30	51	50	101	151	63.4	40	32	72	11	17	28
	学校教育学部	122	229	351	93	203	296	4	31	35	29	58	87	33	89	122	41.2	25	24	49	4	2	6
	法学部	79	64	143	52	38	90	44	24	68	0	0	0	44	24	68	75.6	10	6	16	17	20	37
	法学部夜間主コース	46	33	79	15	16	31	9	6	15	0	0	0	9	6	15	48.4	0	0	0	31	17	48
	法学部(第二部)	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	1	1	1	0	1
	経済学部	125	32	157	58	12	70	41	11	52	0	0	0	41	11	52	74.3	8	3	11	59	17	76
	経済学部夜間主コース	62	26	88	39	12	51	14	7	21	0	0	0	14	7	21	41.2	0	0	0	23	14	37
	経済学部(第二部)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	1	0	1
	理学部	196	68	263	46	27	73	29	16	45	4	1	5	33	17	50	68.5	144	38	182	5	3	8
	医学部 医学科	83	22	105	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	医学部 総合薬学科・保健学科	47	151	198	15	104	119	15	97	112	0	2	2	15	99	114	95.8	24	32	56	8	15	23
	歯学部	38	21	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	工学部	535	71	606	162	45	207	139	43	182	0	0	0	139	43	182	87.9	349	20	369	24	6	30
生物生産学部	74	57	131	21	20	41	12	16	28	0	0	0	12	16	28	68.3	50	30	80	3	7	10	
計	1,661	1,176	2,837	649	773	1,422	385	430	815	56	94	150	441	524	965	67.9	700	226	926	192	133	325	

注) 医学部医学科, 歯学部は卒業生数のみ掲載。